

平成 27 年度

事業所名：介護予防施設 西光荘

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021
法人名	株式会社 金ヶ崎福祉フロンティア
事業所名	介護予防施設 西光荘
所在地	岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544番地2
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 8 日
評価結果市町村受理日	平成28年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0392500021-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 27 年 11 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

酪農が盛んな地域に立地しており、窓からみえる景色はとても開放的。入浴は温泉を利用しているため湯治をしに来た気分を味わえます。併設に駒子の湯と和光ドームがあり、定期田園バスが運行されている事もあり、面会やボランティアの交流もあります。行事では職員による寸劇を行い利用者にも笑える内容にしています。利用者様のペースに合わせたゆったりとした環境で日々の生活を送れます。また他グループホームにはあまりない「認知症対応型通所」があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方々が隣接の温泉施設や和光ドームを利用される際に面会に訪れてくれたり、ボランティアの受け入れを積極的に行っているほか、併設する小規模多機能型居宅介護事業所の利用者と一緒に行事を楽しむ機会も多い。協力医の訪問診療を継続しながら利用者の健康管理に配慮するとともに、職員は、理念の共有・実践・振り返りを通して細やかなケアにあたっており、利用者の生き生きとした笑顔がみられるよう「寄り添う気持ちで接すること」を大切にしながら出来る限りその人らしく過ごせるよう支援している。職員と運営者との面談や話し合いも随時行われ、思いを共有してホーム運営にあたっていることが強みである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 27 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後に理念を唱和し実践出来るように作成した介護理念も唱和をしている。毎月その介護理念の中から1つ選び目標にしている。	三項目の介護理念のうちの毎月一つを重点目標に選び日々のケアにつなげるよう取り組んでいる。また月1回の合同ミーティングにおいて振り返り、評価を行い更なる意識づけを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生の職場体験の受け入れを行っている。誕生会の時に地域の方々が来て歌や踊りを披露してくれる。菜作りを行い、完成品を併設の駒子の湯に置いて好きな物を選んでもらった。また地区の敬老会に参加した。	広報誌を発行して地域に配布しホームの状況や情報を発信している。また、中学生の職場体験やボランティアの受け入れを積極的に行うと共に、利用者が作成した塗り絵をラミネートした「しおり」を隣接する温泉施設に提供してグループホームを知ってもらえるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた広報誌を発行し配布。より地域の一員になれるようにしている。貯筋講座や湯ったりサロン等で介護予防に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催。会議のメンバーには行事に参加してもらい、利用者・職員・施設の様子をみてもらっている。頂いた意見は即実行するように心がけている。	定期的かつ有意義な内容で開催されており、利用者代表・家族代表の出席を得て直接声を聞きながら運営に反映させている。特に利用者の介護度が軽くなったことへの評価意見が多く出され、職員の自信ややりがいにも通じている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の連絡会議等に参加し日頃から連絡を取り、連携が図れるようにしている。また運営推進会議に町職員が出席している。	町の福祉連絡会議に出席し、諸連絡や情報交換、指導助言を得ている。生保等担当者、介護相談員などの訪問を受けながら、行政との連絡連携を円滑に行うほか、普段には、電話でも連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オムツに手を入れていたり、外へ出たがっている時は本人なりの動機がある事、身体拘束は、人の体と心を深く傷つける事を自覚し取り組んでいる。	身体拘束排除宣言文を掲示して職員がいつでも目にするようにしているほか、外部研修に参加し伝達講習により周知している。また言葉づかいなど職員相互で注意し合い、言葉による拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部及び内部研修を行い職員の周知を図っている。入浴時等に身体観察を行い注意を払っている。また、職員が慣れ慣れしい言葉遣いにならないように注意を払っている。		

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束・虐待・尊厳等の内部研修の中で成年後見制度や権利擁護について職員が学ぶ機会がある。また利用者の中には成年後見制度と権利擁護を利用している人がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は職員が2人で赴き重要事項の説明等を行っている。介護保険報酬改定等の際には文書や家庭訪問により説明・理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夏祭り会・クリスマス会後に家族懇談会を行い要望・意見を頂いている。また利用者と家族の中に運営推進会議のメンバーがいる為、直接要望・意見を頂く事があり、サービスの確保・向上に努めている。	家族が面会に来訪されたときに必ず声をかけるようにし意見、要望を把握するようにしている。遠方の家族には電話や手紙で生活状況を伝えているほか、年2回行事と併せて家族懇談会を開催し意見をもらえるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の合同ミーティング時に意見交換を行い、幹部会議等で提案している。今年度はペット購入の提案をし3台購入、内部研修出席者には時間外手当が支給されるようになった。また社長との個人面談も継続して行っている。	合同ミーティングにおいて職員の意見、提案を聞き、その内容を受けて検討し、設備や備品等運営の改善を行ったほか職員の処遇改善を行い職員の働く意欲や質の向上につなげている。また、年2回程度個人面談を行い職員の声を直接聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自お便り作成や献立作成などやりがいを持って仕事をしているが、どうしても時間外になってしまう事が課題となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加したい外部研修をアンケートを取り、機会がある場合は参加出来るように配慮している。また内部研修は計画的に行っている。今年度から職員がより集まれるよう、内部研修が行われる時間は時間外手当が支給されるようになった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会・交換研修、町の連絡会議、社会福祉協議会主催の情報交換懇談会等に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談や申し込みがあった場合は、本人の健康状態や生活上の問題となる事、要望をアセスメントしている。また見学・体験に来ていただき、本人の要望や不安を理解するように努めている。本人が言った事を細かく記録するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族にも見学に来ていただき、家族の介護上の困難な事や思いに耳を傾けアセスメントしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況をよく聴き、また本人及び家族の要望を踏まえ、必要としているサービスが利用できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	飲み屋を経営していた利用者がいるので食器拭き、野菜の皮むき等食事作りの準備、食べ終えた食器をカウンターへ運んで頂いたり、すいとんを作って頂いている。洗濯物たたみも一緒に行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に本人の生活の状況の報告書を送っている。また、連絡を密にし、面会の際は家族とゆっくりと話せるよう配慮し、職員も家族に日頃の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の温泉の利用者が訪れてくれたり、近所の人達から花や野菜等を頂く事がある。また、移動販売や床屋の来荘など、新たな馴染みの関係を築いている。家族と一緒に食事をとりたいたいという要望に応え、いつでも家族や馴染みの人達が訪問し、ゆったりと過ごせるように配慮している。	近所の方や親族の方が隣接の温泉施設に来た際に立ち寄ってくれることが多く、その際は居室でゆっくり過ごしてもらっている。また馴染みの理容店に利用者と家族と一緒に رفتったり、墓参りの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人が和やかに過ごせるように、コミュニケーションのとりやすい席の工夫や声がけなど利用者のペースの合わせて関わり合いの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入所によるサービス利用終了がほとんどだが、在宅となった利用者は併設の小規模多機能型の利用者となった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や関わりの中で、民謡が好きな利用者の為に歌を、花を生けるのが好きな方には花を持って来たりと本人の思い・希望・意向の把握に努めている。入浴や就寝前など気持ちがゆったりとしている時に話を聞いている。	利用者との会話や日常生活での表情、しぐさなどから職員の気づきを申し送りや記録によって共有し、家族からの話題なども含めて意向等を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から生活歴・経緯・出来る事・好きな事(物)等を聞き取り、把握するように努めている。また、日々の会話や関わり合いの中から情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わり合いやバイタルチェック等で個々の行動パターン・出来る事や心身の状態の把握に努め、ミーティングや申し送り時に情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で本人や家族の意見や思いを聞き、職員も交えた意見交換をして、ケアプランに反映させている。また、職員も気づきをもとに具体的な介護計画を立て支援している。	居室担当の職員を中心にミーティングで、本人・家族の状況を確認し、職員間で意見を出し合い計画に反映させている。また定期的な見直しのほか、常に状態変化を捉えモニタリングに基づき計画変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違った事や、工夫した事を支援記録に必ず記入し、職員間での情報交換も細目に行なっているので実践できそうな事は、即座に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活支援事業の利用、訪問診療の利用、床屋、クリーニングの訪問等、ニーズ発生時に可能な限り対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括ケア会議等を通し連絡調整し利用者にあった利用ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族にお願いしているが、受診の援助も行っている。現在、協力医の訪問診療を利用している。体調の変化があった場合等相談に乗っていただいている。	入居時に協力医の訪問診療について説明し、本人、家族の希望に沿った医療が受けられるようにしている。通院は家族同行の受診となっているが、普段の様子や変化などを記録した文書を渡し、円滑な医療支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の体調や排便状況等を看護師に報告し、指示を仰いで。常に介護と看護が連携をとっている。看護師は利用者の状態観察に努め、適切な対応・指示が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には面会や家族から様子を伺い、必要があれば医療機関と情報交換を行っている。病状の経過・状態を把握し、利用再開時に混乱がないように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やかかりつけ医協力医と当事業所はどこまで出来るかなど話し合い、対応可能な機関へ移行できるよう支援している。また、家族の不安が少しでも和らぐ関わり方に努めている。	入居時に本人、家族と話し合い、重度化した場合、事業所として対応可能な支援を説明している。終末期については、本人、家族の意向を踏まえ出来る限りの対応をしていきたいとしている。	本人、家族の大きな不安の一つが重度化したときや終末期のことだと思われる。いつ対応に迫られるかわからない現実的なことと考え、職員全体で話し合い方針の統一を図り、希望に沿った対応に向けた体制整備の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急法の訓練を行っている。また内部研修において利用者の急変時の対応について勉強会も予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と共に避難訓練を行っている。防災委員会を中心に夜間想定避難訓練やビデオ研修等、様々なテーマで行っている。また職員の入れ替わりがあったので緊急連絡網の練習にも力を入れている。	消防署立会いの下、併設事業所と合同の避難訓練を年2回行っているほか、事業所独自に月1回を目安に夜間想定避難訓練や緊急連絡網による伝達訓練などに取り組んでいる。	事業所の立地環境からみて、火災や自然災害時における夜間の迅速な職員対応は難しいと考えられることから、近隣住民の参加協力が得られるような体制づくりに期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調・大声・早口に気を付け、排泄誘導時には、「手伝って頂きたいことがあります。」と気持ちを汲み取るような声掛けをしている。また「1人になりたい」等の時の気持ちも汲み取るように努めている。	馴れ馴れしい言葉づかいや声のトーンに気を付け、援助が必要な時もさりげない声かけや対応に配慮している。出来ることやしたいことを見つけながら、暮らしの中にも一人ひとりの“出番”に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の暮らしの中で、リラックスした時間(入浴時)などに伺ったり、希望や声を大切にする努力をしている。意志表示が難しい方の場合には表情や行動を良く見て対応を考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事また午後のレクリエーション等時間は決まってはいるが、個々のペースで参加している。利用者に合わせた生活リズムになるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者によっては、化粧品を購入したい方もいるので、好みを聞き入れ、購入したり家族から持って来て頂いたりしている。家族からも夏物・冬物の入れ替えや購入も協力頂いている。行事の時は、オシャレもして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	すいとんメニューの時、すいとん練りが得意な利用者に練って頂き味付けまでして頂いている。皆さんすいとんの時はあちこちから「美味しい」という声が聞こえる。食事の下ごしらえや食器拭きもして頂いている。	利用者の気持ちや力量に沿い、食事の準備や後片付けなどを一緒に行っている。男性職員が調理していると進んで手伝ってくれる利用者もあり、食事作りが自信につながるよう表情を見ながら楽しい食事となるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や好みに応じ、苦手なものは手を加えて食べやすく形を変えたり、とろみをつけたりソフト食にしている。また、個々の状態に応じた食事量を提供し、食事量・水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。口腔ケアの研修にも参加し、口腔ケアの重要性を職員に認識してもらっている。口腔ケアに応じない方がいるので、その方にどう援助していくか課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の力・排泄パターンに合わせ排泄用品を使い分けている。チェック表・排泄パターン・しぐさにより声掛け・トイレ誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄を促している。	水分摂取量や排泄時間を把握して時間で誘導したり、その時の仕草を見逃さないようにして声がけし、適時適切な対応の中、失敗するケースも殆どなく、生活の自立にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・ヨーグルト・牛乳・水分を意識的に摂取するようにしている。足踏みをしてお腹に刺激がいく様な体操をしたり、トイレで腹部マッサージもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は天然温泉であり、入浴時間は午前となっている。併設の事業所で入浴するなど、個々の状態に応じた入浴を行っている。また、利用者の要望で午後に入る事もある。	天然温泉のお湯を利用していることもあって、入浴希望者が多い。基本的には一人週3回入浴できるよう支援しており、一人で歌を歌うこと、職員と語り合うこと、一人で静かに過ごすことなどさまざまに楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の居室で寝るのは別に、ソファや畳で昼寝をする方もいる。また、利用者の眠くなる時間帯を把握しその時間に就寝させている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を理解し、症状の変化を確認し、訪問診療時に相談する事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設の小規模多機能型居宅介護のレクリエーションに参加し、季節ごとの行事やカラオケを楽しんでいる。また可能な方は希望に応じ買い物やドライブを楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は職員の同行により、車椅子の人も施設の周辺や併設の温泉に出かけている。また季節を感じられるように近くにある農業大学校へ桜並木やハウス内の花を見に行ったり産直で買い物もしている。職員の同行で地区の敬老会へも参加した。また、面会時に家族と共に外出する場合もある。	天候や気分と相談しながら、普段には散歩をしたり、利用者のリクエストによるドライブや家族との外出なども行っている。今後は、外出の苦手な方への外気浴など気分転換に配慮した支援や、寒い時期の外出などについて、知恵を絞っていききたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な利用者はお金を所持している。併設の温泉の売店や移動販売で買い物をしている。職員が付き添い支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話ができるよう支援している。また、寂しそうな時等こちらから御家族に電話でお願いすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕飾り・クリスマス・正月・水木団子等季節感が感じられるよう飾り付けている。また行事の写真や書初めなど楽しみを思い起せるように展示もしている。季節の花や木の実は飾っている。	廊下や食堂など天窓からの自然光で適度な明るさが確保され、季節に応じた温度管理により快適に過ごせるよう配慮されている。また、季節行事や四季を感じさせる切り絵や折り紙、みずき団子、笑顔あふれる行事写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で思い思いに過ごせるようにソファの位置や食事の席を工夫している。テレビの前や廊下に畳スペース・テーブル・椅子があり、それぞれが好きなように過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ち込み、家族の写真を貼ったりなど、本人の居心地の良ように配慮している。仏壇を持ってきている利用者もいる。また家族からの要望で置いて欲しい物を持って来て頂いている。	備え付けの木製タンスやベッドなどを利用して、着替えなどを整理し、整然そして清潔が保持されている。位牌や写真、カレンダー、時計など、暮らしに必要な最小限のものを部屋に持ち込み過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーであり、手摺りが設置されている。居室やトイレには必要があれば名前や目印をつけ見当識への配慮をしている。常に付き添うのではなく必要な時に介助できるように心掛けている。		